

平成 30 年度第 4 回理事会 議事録

日時：平成 31 年 3 月 2 日（土）10：00～14：40

会場：東京コンベンションホール 5 階 大ホール A

出席者：

理事長：藤井 知行

副理事長：木村 正、八重樫 伸生

理事：青木 大輔、板倉 敦夫、苛原 稔、榎本 隆之、岡本 愛光、加藤 聖子、吉川 史隆、京 哲、
工藤 美樹、生水 真紀夫、関 博之、関沢 明彦、千石 一雄、竹下 俊行、寺田 幸弘、樽
原 久司、蜂須賀 徹、三上 幹男、村上 節、山田 秀人

監事：岩下 光利、櫻木 範明、平松 祐司

顧問：小西 郁生、吉村 泰典

特任理事：海野 信也、大須賀 穰、荻田 和秀、宮城 悦子

幹事長：阪埜 浩司

副幹事長兼第 71 回学術集会プログラム委員長：梶山 広明

幹事：岩瀬 春子、上田 豊、織田 克利、加藤 育民、河野 康志、岸 裕司、木村 文則
桑原 章、桑原 慶充、近藤 英治、澤田 守男、関根 正幸、寺尾 泰久、西ヶ谷 順子、
西郡 秀和、平田 英司、矢内原 臨、山上 亘、矢幡 秀昭

議長：光田 信明

副議長：久具 宏司、田村 秀子

弁護士：平岩 敬一

名誉会員：中林 正雄、神保 利春

事務局：吉田 隆人、加藤 大輔、青野 秀雄

10 時 00 分 理事長、副理事長、常務理事、理事の 25 名のうち 23 名が出席（池田智明理事、北脇城理事は欠席）し、定足数に達したため藤井知行理事長が開会を宣言した。藤井知行理事長が議長となり、議事録署名人として藤井知行理事長および岩下光利監事、櫻木範明監事、平松祐司監事の計 4 名を選出しこれを承認した。

I. 平成 30 年度第 3 回理事会議事録の承認

本件について特に異議はなく、全会一致で原案通り承認された。

II. 主要協議事項

1) 運営委員会の答申について

[資料：運営委員会 1]

青木大輔委員長「運営委員会の答申にあるが、事務局の会員管理システムのサーバー問題（災害時のリスクヘッジ、システム自体が古い等の問題）への対応についての検討を始めたい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(1) 専門委員会運営内規の改定

[資料：運営委員会 2]

青木大輔委員長「専門委員会の業務を円滑に進めるため、学会の幹事団とは別に各専門委員会に専門委員会幹事を置きたい。この内規改定をお認めいただいた場合は、今回は 4 月の臨時理事会で専門委員会幹事の承認を受けることとしたい。」

加藤聖子理事「専門委員会幹事は専門委員会委員の中から選出することになるのか。」

青木大輔委員長「委員会に 1 名追加されると考えており、あくまで委員は委員であり現在の委員の先生に加えて活動していただくものと考えている。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

2) 平成 31 年度事業計画について

[資料：協議 総務 1]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

3) 平成 31 年度予算について

[資料：協議 会計 1, 2, 3, 4, 5]

吉川史隆理事「参考資料にもあるが、正味財産は平成 24 年度より減ってきており、平成 30 年度の決算はまだ出ていないが、ここ数年とあまり変わらず減少方向と思われる。」

藤井知行理事長「ここ数年、皆さんの本会会計への意識が浸透してきた結果、支出が抑えられたことで、大幅な赤字予算は立てなくて済むようになった。しかし収入面では大きな寄附が打ち切られて厳しい面もある。また学術集会の収支について会計事務所にチェックしてもらったところ、委託会社は学術集会に携わった自社社員の人件費を学術集会経費として計上した上で、さらに手数料を 10% 上乗せしているなどの処理が明らかになり、その旨先方には厳しくお伝えした。」

八重樫伸生副理事長「中央専門医制度委員会より問題点を皆様に周知をしておきたいが、本会の専門医は例年 2,000 人ほどが更新をしておき、そのうちの半分程度が機構専門医の認定も受けている。その場合、機構に本会は 1 人当たり 10,000 円支払うので、現在 1,000 万円程支払っているが、2021 年からは全員が移行になるので 2,000 万円支払う必要があり、本会の経費負担が増えることが 2 年後に予想される。何年か前に本件に関して値上げを行っているが、その分を見込んで何らかの積み立てを行うような予算対応はなされていないので、本会収支に影響を与える可能性があることを知っておいてほしい。」

藤井知行理事長「今回は収支改善努力の結果として 50 万円弱の黒字予算を目指すこととしたが、会員には e-ランニングや専門医審査料など色々と課金させていただいていることもあり、大幅な黒字予算を組むことはできない。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

4) 資金調達及び設備投資の見込みについて

[資料：協議 会計 6]

(1) 平成 31 年度において本会の資金調達及び設備投資の見込みはない。

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

5) 倫理委員会からの報告について

(1) NIPT に関する指針の見直しについて

[資料：協議 倫理 1-1, 1-2, 1-3]

苛原稔理事「NIPT に関しては厳格な基準で行なってきたが、10 の県では実施できておらず、アクセスの悪い妊婦さんも生じている。そこで従来の認可施設を基幹施設として、そこに連携する連携施設を作ることによって施設を増やすことが適当であると考えた。連携施設は産婦人科医であり、小児科と連携を取れる分娩施設とする。これに関しては様々な意見があるため、NIPT に関するパブリックコメントの実施についてご承認いただければ早速パブリックコメントを募集し、妊婦からの意見も取れるように Baby プラスでも意見を求めたい。関連学会には NIPT に関する指針の見直し案についても意見を求めている最中である。3 月一杯でパブコメ案をメ切とし、4 月の臨時総会には意見を集約したものを出したい。そして 6 月の理事会で NIPT に関する指針の最終案としたい。」

藤井知行理事長「本件に関しては、学会の正式な案として世の中に出すのはこれが初めてであり、今まで新聞に出た内容はすべて審議途中の物がどのような経緯かは不明だが漏れ出ていたものであ

る。今回の報告が私たちの提示する案ということになる。本日は決定しないが、パブリックコメントを求めるためにこれをまず世の中に公開することになり、本日の記者会見でも公表する。」
本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

6) 第71回学術講演会について

[資料：学術講演会 1-1, 1-2]

梶山広明第71回学術集会プログラム委員長「宿泊に関して、外のサイトから予約が出来ない状況の意見もあるが、ホームページからはまだ可能である。」

7) 名誉会員及び功労会員の推薦について

(1) 国内名誉会員として6名の先生を推薦し、4月の臨時総会に諮りたい。

[資料：名誉・功労会員 1]

藤井知行理事長「竹田省先生については、第2回理事会で代議員歴と理事歴を別カウントだったものを合算できるように規則を改訂したことにより、今回、要件を満たすこととなった。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(2) 海外名誉会員として第3回理事会で承認された5名の先生を、4月の臨時総会に諮りたい。

[資料：名誉・功労会員 2]

(3) 地方連絡委員会委員より推薦された17名の功労会員候補について、4月の臨時総会に諮りたい。

[資料：名誉・功労会員 3]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

8) 「日本産科婦人科学会75年史」編集委員会の設置について

藤井知行理事長「日本産科婦人科学会の前身は二つの学会であり、日本婦人科学会が明治35年(1902年)に設立され、産科婦人科医学会が大正4年(1915年)に設立され、その二つが昭和24年(1949年)に一つになり、5年後の2024年に75周年を迎える。50年史が以前作成されているため、25年を足して歴史をまとめる作業となる。本会の事業として内閣府から承認を得るためにも編集委員会を設置し、本日の場で委員長には歴史に造詣の深い久具宏司先生にお願いしたい。」

久具宏司副議長「学会の歴史に造詣が深いわけではないため、藤井理事長がおっしゃった前身が日本婦人科学会と産科婦人科医学会であることを存じ上げなかったが、過去に作成された資料を基に、また諸先輩方にご意見を伺いながらやっていきたいと思う。あくまで委員会であるので、委員の先生方と幹事の先生に何人か入っていただき、ご協力いただければと思う。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

III. 専門委員会報告並びに関連協議事項

1) 生殖・内分泌委員会 (大須賀穰委員長)

(1) 会議開催

平成30年度第2回生殖・内分泌委員会	1月16日(水)
--------------------	----------

(2)平成 30 年度事業報告・平成 31 年度事業計画について
本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

[資料:専門委員会 1-1, 1-2]

2) 婦人科腫瘍委員会 (榎本隆之委員長)

(1) 会議開催

低侵襲広汎子宮全摘術に関する小委員会	3月1日(金)
--------------------	---------

(2)平成 30 年度事業報告・平成 31 年度事業計画について
本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

[資料:専門委員会 2-1, 2-2]

(3)子宮頸癌に対する腹腔鏡下広汎子宮全摘出術について
本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

[資料:専門委員会 3-1, 3-2]

3) 周産期委員会 (金山尚裕委員長)

(1) 会議開催

平成 30 年度第 2 回周産期委員会 [資料:専門委員会 4]	2月1日(金)
----------------------------------	---------

金山尚裕委員長「2018 年 9 月 1 日のサイエンス誌記事に『日本産科婦人科学会の体重増加指針が低出生体重児増加の一因であり、わが国の産婦人科医の大半は厳しい体重増加指針を行っている』との記載があった。周産期委員会としては妊娠中の体重増加の推奨値が 10 キロまでというのはやや少ないということで検討するとしている。サイエンス誌には 1997 年の妊娠中毒症の予防を目的とした妊婦の体重増加指針をそのまま日本の産婦人科医が継続していると掲載されたため、それに対して周産期委員会として反論した文章を提出したところ、10 月のサイエンス誌に『妊娠中毒症の予防の指針であり、学会が指示しているわけではなく、一般的な体重管理がある』旨を掲載された。今後学会としても妊婦の適正な体重管理を検討する必要があり、来年度の委員会で検討の場を設けることとした。そのため 1997 年の指針は取り下げることとした。」

藤井知行理事長「1997 年の指針は過去のものだと思っていたので、外国の方がどうしてこれを注目して引用したのか分からないが、周産期委員会としては変更しておらず、この度修正するということでした承する。」

木村正副理事長「現場で体重管理を行っているのは助産師なので、助産師会の方を一人入れておく方が良いのではないかと考える。」

金山尚裕委員長「次期委員長に伝えて検討することとする。」
本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(2)平成 30 年度事業報告・平成 31 年度事業計画について

[資料:専門委員会 5-1, 5-2]

金山尚裕委員長「来年度は遺伝に関する諸問題が多くなっているため、周産期における遺伝に関する小委員会を作ること、妊婦の適正な体重管理基準を見直す委員会の作成、生殖と周産期の今後の連携の重要性を踏まえた委員会の作成、妊娠と悪性腫瘍の小委員会の作成、周産期脳障害及び健康度の評価に関する小委員の作成を予定している。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(3) 日本てんかん学会より、第53回日本てんかん学会学術集会（2019年10月31日～11月2日）における演者（近畿周辺の女性を希望）の推薦依頼を受領していた件につき、本会から森實真由美先生（神戸大学）を推薦した。

(4) 厚労科研難治性疾患政策研究事業周産期心筋症班からの「周産期心筋症治療ガイドライン」の認定依頼について、周産期委員会と研究班の間の協議がまとまったので、本会としてこれを承認したい。このガイドラインには作成者として本会名が記載される。 [資料：専門委員会 5-3]

木村正副理事長「このような希少疾患にガイドラインという名前を付けられると、たまたま当たって、ガイドライン通りに出来なかった先生は不利益を被る懸念がある。ガイドラインとすると後で何か不都合が起こった時に自分で自分の首を絞める可能性があり非常に危険だと考える。」

関博之理事「ガイドラインという言葉はやはり問題があるので、診療の手引きという形はいかがか。木村先生のご意見のように、ガイドラインという言葉が独り歩きして問題が起こることが懸念される。」

藤井知行理事長「一度押し戻すということではどうか。」

青木大輔理事「研究班もガイドラインとしては不十分であると記載しており、そこを理由に意見として述べてはどうか。」

ガイドラインとの表現について再検討を求めることとした。

4) 女性ヘルスケア委員会（北脇城委員長欠席につき、加藤聖子次期委員長）

(1) 会議開催

平成30年度女性ヘルスケア委員会	3月8日（金）
------------------	---------

(2) 平成30年度事業報告・平成31年度事業計画について [資料：専門委員会 6-1, 6-2]
本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(3) 書籍頒布状況（1月16日現在）

- ・低用量経口避妊薬・低エストロゲンプロゲステン配合薬ガイドライン 2015
書籍版：5,450冊
- ・ホルモン補充療法ガイドライン 2017
書籍版：3,007冊
書籍版+ID/PW付き：987冊（うち、ダウンロード済み509件）
- ・女性アスリートのヘルスケアに関する管理指針
書籍版：867冊

(4) 「女性のヘルスケアアドバイザー養成講座」は2018年度で終了し、今後は「女性のヘルスケア研修会」として日本女性医学学会が主催し、2019年9月から開始する予定である。

(5) 厚生労働省 医政局医事課 医師臨床研修推進室から、緊急避妊薬のオンライン診療化に向けての検討会への参加要請があり、これに参加することにした。 [資料：専門委員会 7]

加藤聖子委員長「本件については先日、矢野哲先生が面談して反対意見を伝えており、今回は北脇城先生が面談した。資料の朝日新聞の記事では医会の反対意見の記載があり、学会としてもまず女性ヘルスケア委員会で話し合う予定である。」

藤井知行理事長「本会はこれまで反対意見で、今後もそのつもりである。女性ヘルスケア委員会の中

で意見の変更があれば、またそれを議論していきたい。」

(6) 厚生労働省医薬・生活衛生局医薬安全対策課から「国内における経膈メッシュ手術に関する現状や医療現場での使用状況を踏まえての国内での対応方針について話を聞きたいので、経膈メッシュ手術に詳しい先生を紹介してほしい」との依頼があり、古山将康先生に面談頂いた。

5) 次期専門委員会委員候補者について

[資料:専門委員会 8]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

6) 次期専門委員会小委員会および公募小委員会について

平成 31 年度は合計 17 の小委員会を承認したい。また申請のあった 7 件の公募小委員会のうち 1 件は採用、2 件は条件付き採用として次期専門委員会小委員会に取り込み、残りの 4 件は不採用としたい。

[資料:専門委員会 9-1、9-2、9-3、9-4]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

IV. 業務担当理事報告並びに関連協議事項

1) 総務 (青木大輔理事)

[I. 本会関係]

(1) 会員の動向

- ①有広忠雅功労会員 (東京) が 2018 年 11 月 29 日にご逝去された。(2 月 4 日に報告受領)
- ②有松直教功労会員 (福岡) が 2018 年 12 月 14 日にご逝去された。
- ③関谷宗英名誉会員 (千葉) が 1 月 4 日にご逝去された。
- ④関本昭治功労会員 (福島) が 2 月 12 日にご逝去された。

(2) 平成 31 年度臨時総会議事次第(案)について

[資料:総務 1]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(3) 第 71 回学術講演会におけるビジネスミーティングについて

[資料:総務 2]

(4) 平成 31 年度臨時総会 総会資料作成スケジュールについて

[資料:総務 3]

(5) 平成 31 年 1 月に実施された代議員選挙の結果について

[資料:総務 3-1]

(6) 各ブロックから選出された理事候補者および推薦された監事候補者について

[資料:総務 3-2]

(7) 各ブロックから選出された総会運営委員会および決算委員会委員について

[資料:総務 4]

(8) 福岡県地方学会から名誉会員特例措置申請書を受領した。当該名誉会員の会費免除について承認したい。

[資料:総務 4-1]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(9) 無痛分娩関係学会・団体連絡協議会の厚生労働科学研究池田班分担研究「無痛分娩の安全な提供体制の構築のための諸体制の開発に関する研究」との共同研究実施承認依頼を受領し、これに承諾した。 [資料：総務 5]

(10) AMED 革新的がん医療実用化研究事業研究班（代表 大須賀穰先生）が作成した「がん患者の妊孕性温存のための診療マニュアル」について本会に後援依頼があり、生殖・内分泌委員会および婦人科腫瘍委員会で検討した上で承諾した。 [資料：総務 6]

(11) 国立国際医療研究センターから昨年、調査依頼があり協力した「CIN 構想の加速・推進を目指したレジストリ情報統合拠点の構築」事業は3年間の調査であり、本年も患者レジストリ及びコホート研究についての2018調査を行っている。 [資料：総務 7]

(12) ①役員賠償責任保険（支払限度額3億円）、及び②団体総合補償制度費用保険を1年間継続したい。年間保険料は、それぞれ昨年とほぼ同額の①353,670円、②193,500円である。 [資料：総務 8-1, 8-2]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(13) 第70回学術集会の研究助成金について [資料：総務 9]

藤井知行理事長「八重樫伸生第70回学術集会長とも相談して、本年は研究助成金はなしとし、収益は学会に入れていただくこととした。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(14) 本会事務局が入居している東京建物京橋ビルの賃料改定依頼を受領した。契約更新期限は6月末日である。 [資料：総務 10]

藤井知行理事長「上げ幅の圧縮を含め交渉中である。」

〔Ⅱ．官庁関係〕

(1) 厚生労働省からの依頼事項会員周知依頼について

①会員への周知依頼：本会ホームページに掲載した事項（一覧）

部署	内容	資料
医薬・生活衛生局医薬品審査管理課・医薬安全対策課	サリドマイド製剤、レナリドミド製剤及びポマリドミド製剤の使用にあたっての安全管理手順改定について	総務 11-1
医政局地域医療計画課	ACP(アドバンス・ケア・プランニング)愛称決定について	総務 11-2
保険局医療課	妊婦加算の取扱いについて	総務 11-3
医政局研究開発振興課	『「再生医療等の安全性の確保等に関する法律・法律施行令・法律施行規則」の取扱い』の一部改正について	総務 11-4
子ども家庭局母子保健課	母子健康手帳の任意記載事項様式について	総務 11-5
医政局総務課	「広告が可能な医師等の専門性に関する資格名等について」の一部改正について	総務 11-6

② 本会ホームページに掲載し、会員に周知したい事項

部署	依頼項目	内容	資料
医政局地域医療計画課、老健局振興課・老人保健課	会員への周知	訪問診療等に使用する車両に係る駐車許可について	総務 12-1
医政局地域医療計画課	会員への周知	「災害医療コーディネーター活動要領」及び「災害時小児周産期リエゾン活動要領」について	総務 12-2

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

- ③ 厚生労働省医政局・子ども家庭局・保険局より、「妊産婦に対する保健・医療体制の在り方に関する検討会」への構成員推薦依頼があった。本会から中井章人先生（日本医科大）を推薦し、2月12日付けで就任いただいた。 [資料：総務 13]

- ④ 厚生労働省医政局地域医療計画課より、「妊産婦の医療や健康管理等に関する調査」についての協力依頼を受領した。本会と日本産婦人科医学会の連名で、調査対象分娩取扱医療機関に対して調査協力依頼通知を出してほしいとの要望である。 [資料：総務 13-1]
本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

- ⑤ 厚生労働省保健局長より、「第71回保健文化賞」（第一生命保険株式会社主催、厚生労働省後援）の候補者推薦依頼を受領した。 [資料：総務 14]
本件については理事の先生方に周知することとした。

〔Ⅲ. 関連団体〕

(1) 日本医学会

① 日本医学会からの会員周知依頼に基づき、本会ホームページに掲載した事項（一覧）

依頼元	内容	資料
厚生労働省医政局長、政策統括官（統計・情報政策、政策評価担当）	医師による死因等確定・変更報告の取扱いについて	総務 15-1
厚生労働省医政局研究開発振興課	臨床研究法における臨床研究の利益相反管理について	総務 15-2
厚生労働省医政局研究開発振興課	再生医療等の安全性の確保等に関する法律施行規則及び臨床研究法施行規則の一部を改正する省令の公布について	総務 15-3
厚生労働省医政局研究開発振興課	再生医療等の安全性の確保等に関する法律に関するQ&A（その4）について	総務 15-4
厚生労働省医薬・生活衛生局医薬品審査管理課	ペムプロリズマブ（遺伝子組換え）製剤の最適使用推進ガイドラインの作成及び一部改定について	総務 15-5
厚生労働省医薬・生活衛生局医薬品審査管理課	アテゾリズマブ（遺伝子組換え）製剤の最適使用推進ガイドライン（非小細胞肺癌）の一部改定について	総務 15-6

② 日本医学会からの会員周知依頼に基づき、本会ホームページに掲載し会員に周知したい

原依頼部署	依頼項目	内容	資料
厚生労働省医政局医事課	会員周知	医師による異状死体の届出の徹底に	総務 15-7

		ついて	
厚生労働省医政局地域医療計画課、老健局振興課	会員周知	訪問診療等に使用する車両に係る駐車許可の周知について	総務 15-8

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

③日本医学会より、日本医学会分科会理事長・会長あてに NIPT 指針遵守についての周知依頼が発信された。本会もホームページに掲載して会員に周知した。 [資料：総務 16]

④日本医学会より、「日本医学会子宮移植検討会（仮称）」を会内委員会として立ち上げる事が決定したとの報告を受領した。 [資料：総務 17]

⑤日本医学会より、第 5 回研究倫理教育研修会（5 月 30 日開催）の案内を受領した。倫理委員会、診療ガイドライン検討委員会、編集委員会、利益相反委員会の代表者に参加してほしいとの依頼である。 [資料：総務 17-1]

藤井知行理事長「倫理については三上幹男先生にお願いしたい。また利益相反委員会に関しては、山田秀人先生にはぜひ情報収集をお願いしたい。」

三上理事、山田理事が出席することについて、特に異議はなく、全会一致で承認された。

(2) 日本医学会連合

①日本医学会連合より、加盟学会連絡協議会[2月5日（火）、於：東海大学校友会館（霞が関ビル 35 階）]への出席依頼と、「医師の働き方改革に向けて」のセッションでの講演依頼を受領した。本会から海野信也先生が当該会議に出席し、講演した。 [資料：総務 18]

②日本医学会連合より『研究発表に当たっての共通倫理ガイドライン』についてのアンケート依頼を受領した。総務、学術で検討して回答した。 [資料：総務 19]

③日本医学会連合では3月2日に市民公開フォーラム「日本医学会連合提言の紹介と課題解決の方向性、特に医療供給体制の諸問題」を開催する。そのなかで第Ⅲ部「医療提供体制の改革が医師の過重労働問題解決の鍵」(2) 女性医師と労働環境問題（集約化や交代勤務なども含めて）について本会に発表依頼があり、海野信也先生が出席する。 [資料：総務 20]

(3) 日本臨床細胞学会

日本臨床細胞学会より、「細胞診断専門医」につき、本会のサブスペシャリティ領域専門医としての認証依頼を受領した。 [資料：総務 21]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(4) 日本家族計画協会

日本家族計画協会より、「2019 年度女性医療セミナー」への後援名義使用申請、および本会会員への周知依頼を受領した。経済的負担はなく例年の依頼であることから、これに応諾したい。

[資料：総務 22]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(5) 一般社団法人日本総合健診学会、公益社団法人日本人間ドック学会

両学会より、「人間ドック検診専門医」につき、本会のサブスペシャリティ領域専門医としての認証依頼を受領した。 [資料：総務 23]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(6) 日本助産師学会

日本助産師学会より、「乳幼児の望ましい授乳支援のあり方検討特別委員会」への委員推薦依頼を受領した。委員を推薦した場合、3月最終週に招集されることになる。(謝金・交通費支給)

[資料：総務 24]

本件について周産期委員会に一任することに特に異議はなく、全会一致で承認された。

(7) 日本甲状腺学会

日本甲状腺学会から、「バセドウ病治療ガイドライン 2019」への意見・提案の提出依頼を受領した。生殖・内分泌委員会からは意見なし、周産期委員会は意見を出した上で先方の回答を待って検討を行うことにしている。

[資料：総務 25]

(8) 日本 IVR 学会

日本 IVR 学会より協力依頼のあった「子宮筋腫に対する子宮動脈塞栓術に関する合同アンケート」の原案を、両学会共同で作成した。文面・表現に問題が無いようであれば、両学会のホームページに掲載し、会員に対してアンケートを実施致したい。

[資料：総務 26-1, 26-2]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(9) 日本医療安全調査機構

日本医療安全調査機構より、平成 31 年度社員会費（医療安全分担金 50 万円）について負担依頼を受領した。

[資料：総務 27]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(10) 無痛分娩関係学会・団体連絡協議会

無痛分娩関係学会・団体連絡協議会より、ウェブサイト開設のお知らせと本会会員への周知依頼を受領した。本件につき、本会ホームページに掲載して本会会員に周知したい。

[資料：総務 28]
本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(11) 日本病院会、全日本病院協会

第 5 回「山上の光賞」候補者募集の案内を受領した。

[資料：総務 28-1]

本件については理事の先生方に周知することとした。

〔IV. その他〕

(1) 後援名義使用申請について

① 応諾済み案件(一覧)

申請者	事業内容	資料
乳房健康研究会	「ピンクリボンウォーク 2019」(4 月 7 日)	総務 29-1
NPO 法人女性の健康とメ ノポーズ協会	『女性の健康週間イベント「女性の健康と働き 方」フォーラム』	総務 29-2
ウィメンズ・ヘルス・アクシ ョン・シンポジウム実行委 員会	ウィメンズ・ヘルス・アクション・シンポジウ ム in 東京」(2019 年 2 月 24 日)	総務 29-3
一般社団法人シンクパール	「NIPPON 女性のからだ会議 2019」(3 月 3 日)	総務 29-4

(2) 独立行政法人大学改革支援・学位授与機構

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構より、国立大学教育研究評価委員会専門委員、及び機関別認証評価委員会専門委員の候補者推薦依頼につき、本会から大須賀穰先生を推薦した。

(3) 一般財団法人杉山記念財団より、平成 30 年度 SMF 生殖医療振興助成制度の案内を受領した。

[資料：総務 30]

(4) 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 基盤研究事業部バイオバンク課より、「ゲノム指針・医学系指針に基づき実施されている研究に関する実態と課題のアンケート調査」の依頼に対し、総務で取り纏め回答した。また、2 指針の改訂作業に活用する目的で、本アンケートに関連してインタビューの依頼があった。3 月 7 日に青木大輔先生、山上亘先生がこれに応じる予定である。

[資料：総務 31]

(5) 公益財団法人神澤医学研究振興財団より「2019 年度（第 22 回）神澤医学賞」につき、候補者推薦要領（案）を受領した。本件は学術委員会で担当する。

[資料：総務 32]

(6) 慶應義塾医学振興基金より、「第 24 回（2019 年）慶應医学賞」の候補者推薦依頼を受領した。

[資料：総務 33]

(7) 公益社団法人全日本鍼灸学会より、第 68 回全日本鍼灸学会学術大会（愛知大会）への後援名義使用許可申請を受領した。

[資料：総務 34]

加藤聖子理事「JOGR には本件に関するような論文が何件か来ているが、アクセプトはしていない。」

藤井知行理事長「本件に関しては見送ることにしたい。」

後援名義を謝絶することについて特に異議はなく、全会一致で承認された。

(8) 独立行政法人日本学術振興会より、2019 年度日本学術振興会賞候補者の推薦についての通知を受領した。

[資料：総務 35]

本件はホームページで周知することが全会一致で承認された。

2) 会 計（吉川史隆理事）

(1) 会議開催

会計担当理事会	3 月 1 日
---------	---------

(2) 平成 31 年度各部署・委員会予算最終版について

[資料：会計 1]

吉川史隆理事「来年度の各部署・委員会予算は、これで確定させたい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(3) 取引銀行の格付と預金残高について

[資料：会計 2]

3) 学 術（木村正副理事長）

(1) 学術委員会

(イ) 会議開催

第4回学術担当理事会	3月1日(金)
第4回学術委員会	3月1日(金)
平成30年度優秀論文賞2次予備選考委員会	3月1日(金)

(ロ) 平成30年度優秀論文賞について

[資料：学術1-1, 1-2]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(ハ) 他団体特別賞推薦について

平成30年度神澤医学賞に甲賀かをり先生が受賞者に決定した旨、神澤医学研究振興財団から通知を受領した。

(ニ) 学会賞英語名称の策定について

[資料：学術2]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(2) プログラム委員会関連

(イ) 第71回学術講演会プログラム委員会

(ロ) 第72回学術講演会プログラム委員会

①会議開催

[資料：プログラム委員会1-1, 1-2]

特別講演演者選考委員会	1月18日
シンポジウム演者選考委員会、第2回プログラム委員会	2月28日

②シンポジウム演者採用案について

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(ハ) 第73回学術講演会プログラム委員会

①会議開催

第1回プログラム委員会	1月18日
-------------	-------

②シンポジウム課題について

[資料：プログラム委員会2]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

4) 編集 (加藤聖子理事)

(1) 会議開催

第4回編集担当理事会	3月1日(金)
------------	---------

(2) 英文機関誌 (JOGR) 投稿状況

[資料：編集1]

2019年JOGR投稿状況 (2019年2月14日)

投稿数	186
-----	-----

Accept	0
Reject	42
Withdrawn/Unsubmitted	51
Awaiting revision	2
Under review (審査中)	91
Expired	0

2018年 JOGR 投稿分の審査状況 (2019年2月14日)

投稿数	1,660
Accept	231
Reject	1,174
Withdrawn/Unsubmitted	120
Awaiting revision	44
Under review (審査中)	83
Expired	8

加藤聖子理事「昨年度より投稿数は100以上増加した。採択率は現段階では14%だが、revise や under review の論文があり例年通りとなると考えている。投稿は国別割合では中国が一番多い。AOF0G2019 (マニラ) の award の選考中であるが、会費滞納により中国の論文は外して選考を行うよう連絡があった。JOGR の best reviewer 賞は、各分野から4名を決定した。学術講演会の意見交換会で表彰されるが、1名の先生は非会員なので旅費・宿泊費は学会負担の予定である。」

(3) 日本産科婦人科学会雑誌 71 巻 2 号との同梱について

前回の理事会で承認をいただいたので、日本産科婦人科学会雑誌 71 巻 2 号に(株)カイトーのチラシを同梱する予定である。

(4) 厚生労働科学班研究 (女性の健康の包括的支援に関する情報発信基盤構築と多診療科医療統合を
目指した研究) より、作成されたガイドブックの同梱依頼を受領した。3号に同梱の予定である。

[資料：編集2]

加藤聖子理事「資料のように文書を少し訂正いただいた。この班研究は本会が全面的にバックアップしたものであり同梱が認められている。3号に同梱の予定である。」

(5) 2月号 (学術講演会プログラム) について、抄録を掲載していない旨のアナウンスを表紙に記載
することとなった。

[資料：編集3]

加藤聖子理事「今回からは抄録を作成していない (ただし約 800 の抄録は作成している)。紙媒体しか見ない先生もおられると思うので、2月号の表紙に記載した。」

(6) JOGR の編集を依頼しているワイリーの担当者が2月15日で退職することに伴い、2月7日に新
担当と加藤聖子常務理事が面談し、学会事務局とも2月12日に面談を行った。

加藤聖子理事「面談時に引き継ぎをしっかりと行うよう依頼した。退職前に連絡がなかったことは遺憾であることもワイリーにお伝えした。」

(7) 2月号作成にあたり、事務局担当より一般演題システム等での改善したい点が提出されたので、学術委員会とも調整を行う予定である。

(8) 株式会社ステムリム探索研究部知的財産グループより、第70回日本産科婦人科学会学術講演会一般演題に関して、HP公開・アプリ公開・紙媒体発行・JOGR英文抄録公開時期についての問い合わせがあり回答した。

(9) 日本産科婦人科学会雑誌71巻特集について [資料：編集4]

加藤聖子理事「例年どおり3,4,5月に特集を組んでいる(資料参照)。なお71巻の特集のうち倫理に関する特集は原稿が全ては集まっていないため、集まっている原稿を6月号に掲載することを考えている。」

(10) 日本産科婦人科学会雑誌の印刷を依頼している杏林舎と契約書を交わすべく準備を進めてい

加藤聖子理事「杏林舎との事務的な打ち合わせが済んだ後に平岩敬一先生にリーガルチェックをお願いし正式に契約を交わす予定である。」

加藤聖子理事「学術集会のランチョンを主催する会社から総説の別冊1,000部の転載依頼があった。従来は図1個10円x部数を請求しているが、編集担当理事会で検討の結果、1部50円x部数+印刷代を転載費用としたい。また、今後同様に別刷りの依頼があった場合も同様に1部50円x部数+印刷代を転載費用とすることにしたい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

5) 渉外 (岡本愛光理事)

(1) 会議開催

第3回渉外委員会	3月1日(金)
----------	---------

(2) 4月27-28日、イギリス ロンドンにて開催のFIGO理事会に本会より岡本愛光渉外担当常務理事を派遣の予定である。

(3) 6月1日、モルジブにて開催のAOFOG Action Plan meetingに本会より加藤聖子編集担当常務理事、落合和徳AOFOG President elect、万代昌紀AOFOG Committee chairを派遣の予定である。

(4) AOFOG Congress 2019 (11月10-14日、於：フィリピン マニラ) について

① スピーカー推薦について

第70回シンポジスト8名の意向を確認し、4名を推薦した。

② Young Gynaecologist Award(YGA)募集について

応募者についてAOFOG YGA選考委員会(理事長、渉外委員長、渉外副委員長、教育委員長、AOFOG officers, AOFOG committee chairs/members)による審査を行った。自治医科大学附属さいたま医療センター 大井手志保医師を本会よりAOFOGに推薦する予定である。

(5) KSOGより、9月のKSOG学術集会(9月20-21日、於：韓国 ソウル)に合わせて行われる日

韓台 Exchange Program について Invitation を受領した。第 3 回日韓台ジョイントカンファレンススピーカーとして、学術委員会推薦による豊島将文医師（東北大学）、諸隈誠一医師（九州大学）、山田満稔医師（慶應義塾大学）を KSOG に推薦した。 [資料：渉外 1]

(6) ACOG より、2020 年 ACOG Annual Meeting が 4 月 24～27 日（於：シアトル）に開催され、第 72 回日産婦学会学術講演会（4 月 23～26 日）と日程が重なるため、同年の日米 Exchange Program 実施について協議が必要との連絡を受けた。

岡本愛光理事「昨日の渉外委員会では、2020 年の Exchange Program は実施しないことが決まった。また 2021、2022 年の ACOG の会期を確認し、本学会の学術講演会とは重複しないことを確認した。教育委員会で現在選考中の応募人には、2021 年の参加を提案したい。」

藤井知行理事長「日米両国の若手の医師にとってはそれぞれの自国学会が優先であり、今回の Exchange Program は見送りとしたい。ただし、応募者は 4 月の学術集会で最終選考が行われる予定であり、2021 年の選考をすることを通知してはどうか。」

竹下俊行理事「昨日の教育委員会で本件について協議を行った。昨年 9 月に一次審査が行われ 11 名が選ばれ、4 月の学会発表内容が 2 次審査の対象となり 6 名が選ばれる予定となっている。応募者の選考は予定どおり行い、2021 年の ACOG に派遣、あるいは 2020 年の ACOG 参加支援（travel award として約 20 万）の二者択一という案をご協議いただきたい。」

木村正副理事長「travel award は趣旨に合わないように思う。」

藤井知行理事長「20 万円ではなく約 10 万円である。Exchange Program は、発表に行くだけでなく、米国の若い医師との交流や情操教育のようなイベントに参加することに意義があるので、2021 年に派遣することを前提で選考に参加していただくのがよい。また費用は ACOG のためにいただいております、travel award には出せない。」

2020 年の Exchange Program は見送ること、2 次選考の前に 11 名に事情を説明し 2021 年の ACOG 派遣の選考となるため、辞退する場合は予め申し出るよう伝えることについて特に異議はなく、全会一致で承認された。

(7) 2019 ACOG Annual Clinical and Scientific Meeting（5 月 3-6 日、於：テネシー州 ナッシュビル）への派遣役員として、青木大輔第 72 回学術集会長に代わり、加藤聖子編集担当常務理事を派遣の予定である。

(8) FIGO Chief Executive Mr. Johan Vos の任期が今年 3 月末で終了となることから、後任を募集中である旨、FIGO President Dr Carlos Fuchtnner より連絡を受けた。 [資料：渉外 2]

藤井知行理事長「英語が堪能でずっと海外にいないと選ばれないので、見送りたい。」
本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(9) AOFOG Congress 2023 招致について [資料：渉外 3]

岡本愛光理事「資料のように AOFOG Congress 2023 を開催する意思があれば 6 月 10 日までに書類を送り 11 月の学会（マニラ）で 10 分間のプレゼンテーションを行うようメールが届いた。渉外委員会では、新キャビネットで継続して検討することとする方針とした。」

藤井知行理事長「まだ時間的に余裕があり 4 月に次期理事が決まり新体制が固まってくるので、新体制の考えを尊重したい。AOFOG は赤字で持ち出しとなり、また開催期間が 5 日間と本会学術講演会とカップリングできない。ただ開催できる国は決まっており、順番としてはそろそろ日本である。もし台湾や韓国が出るのなら応援して立場を有利にするという考えもある。各国の情勢を判断し判断は新体制に委ねたい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

6) 社 保 (北脇城理事欠席につき、澤田守男主務幹事)

(1) 会議開催

第3回社保委員会	2月22日(金)
----------	----------

(2) 2020年診療報酬改定提案について [資料: 社保1]

澤田守男幹事「各関連学会の社保担当の先生と相談し、内保連・外保連にあげる候補を選定した。各項目について提案書記載者もお願いした。」

(3) 外保連試案改訂(外保連試案2020)に向けて、社保委員の所属施設において手術試案医療材料見直しの調査を行った。

澤田守男幹事「外保連から指示により実態調査を行い、約30の手術について外保連試案を改定した。」

(4) 日本医師会疑義解釈委員会より、「平成30年度第4回供給停止予定品目(30疑0734)」、「平成30年度医療機器・体外診断用医薬品の供給停止品目(30疑0631、および30疑0735)」、「平成31年3月経過措置移行予定品目(平成32年3月末日薬価削除予定)(30疑0736)」についての検討依頼を受領し、本会理事、および社保委員による検討結果を回答した。

(5) ロボット支援下婦人科悪性腫瘍・良性疾患手術実施施設登録状況について [資料: 社保2]

(6) 「医薬品の適応外使用事例」の申請について [資料: 社保3]

澤田守男幹事「子宮内膜異型増殖症に対するヒスロンHを用いた妊孕性温存療法は保険外使用であり、適応外使用事例として申請することにしたい。」
本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

7) 専門医制度 (八重樫伸生副理事長)

(1) 会議開催

第4回中央専門医制度委員会	1月26日(土)
第7回研修システム改修小委員会	2月27日(水)
新専門医認定証授与式打合せ	3月2日(土)

(2) 2019年10月1日以降の消費税増税に伴う専門医制度の審査料、登録料等について

従来専門医制度の審査料・登録料は消費税込としていたが、2019年度から日本専門医機構の専門医認定料が外税方式に変更されることもあり、2020年度から学会専門医制度の審査料・登録料を消費税別に変更したい。 [資料: 専門医1~3]

八重樫伸生副理事長「日本専門医機構から通知があり、専門医(更新)認定料が内税から外税となる。それに伴い、これまで機構認定された専門医について本会から機構に支払う認定料は税込10,000円であったものが2019年以降は税別10,000円と増税分以上に値上げとなる。税金分の1,000円は学会負担となるため、機構と同様に本会としても外税に代えて増税分以上の値上げを提

案したい。具体的な料金は当日差替の資料：専門医 2 のとおりである。現在、専門医更新時に更新する先生方から本会は 30,000 円を集め、うち 10,000 円を機構に収めている。現在、専門医を更新する先生方の半分は機構認定を受けないため本会は機構に認定料を納めていないが、2 年後からは本会の支払いが 1,000 万円以上増える。消費税引き上げに伴いこのような改定を行い、後にまた改定が必要になる可能性があるという問題があることを、今回認識していただきたい。正式に記載の料金にするかも含め 3～5 月でさらに検討のうえ、6 月の定時総会にかけたい。」

藤井知行理事長「2 年後には全員が専門医機構の専門医になるので本会の持ち出しが増える。そのことも含め考えていきたい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(3) 日本専門医機構

① 会議開催

日本専門医機構 第 2 回専門医認定・更新委員会、基本領域専門医委員会／合同委員会	3 月 6 日 (水) 【予定】
日本専門医機構 第 3 回シーリングについての基本領域会議	3 月 17 日 (日) 【予定】

② 各団体からの機構専門医更新についての要望書について

医薬品医療機器総合機構、AMED、厚生労働省、国立感染研究所、外務省から機構専門医更新についての要望があった。 [資料：専門医 4]

八重樫伸生副理事長「資料のように専門医更新基準の優遇制度の要望があり、認める方向で考えた。具体的な内容については、他の学会と横並びになるよう検討したい。」

藤井知行理事長「機構と相談しながら進めてほしい。」

③ 2021 年度以降の機構専門医の活動期間は「次回更新年の 5 年前の 5 月 1 日より更新年の 4 月 30 日まで」としたい。(暫定期間中は 2015 年 4 月 1 日より当該更新年度の 4 月 30 日まで)

④ 2019 年度専門研修プログラムの専攻医登録状況について [資料：専門医 5]

⑤ 日本専門医機構のシーリングに関する要望書について [資料：専門医 6] 日本皮膚科学会から提案があり、本会としても賛同した。

⑥ 研修管理システムの利用状況について [資料：専門医 7]

八重樫伸生副理事長「資料の黄色は、研修医がシステムに入力していない施設である。該当の期間施設には、入力を指導するよう通達を行う。」

8) 倫理委員会 (苛原稔委員長)

(1) 会議開催

平成 30 年度第 4 回着床前診断に関する審査小委員会	1 月 29 日 (火)
平成 30 年度第 5 回倫理委員会	2 月 12 日 (火)
第 14 回 PGT-A に関する小委員会	2 月 18 日 (月)
平成 30 年度第 5 回着床前診断に関する審査小委員会	3 月 5 日 (火) 【予定】
平成 30 年度第 6 回倫理委員会	3 月 26 日 (火) 【予定】

(2) 本会の見解に基づく諸登録（平成31年1月31日）

- ①ヒト精子・卵子・受精卵を取り扱う研究に関する登録：89 研究
- ②体外受精・胚移植の臨床実施に関する登録：615 施設
- ③ヒト胚および卵子の凍結保存と移植に関する登録：615 施設
- ④顕微授精に関する登録：578 施設
- ⑤医学的適応による未受精卵子、胚(受精卵)および卵巣組織の凍結・保存に関する登録：99 施設
- ⑥提供精子を用いた人工授精に関する登録：12 施設

(3) 着床前診断に関する臨床研究申請・認可について

①旧見解に基づく審査 [資料：倫理 1-1]

・平成30年12月8日現在申請775例 [承認686例、非承認23例、審査対象外37例、取り下げ5例、照会20例、保留4例] (承認685例のうち50例は条件付)

※平成30年6月の見解改定後の症例申請：9件（審査中）

②平成30年6月の見解改定に伴う施設申請71施設 [資料：倫理 1-2]

平成31年2月5日現在 [承認45施設、照会25施設、審査中1施設] (承認45施設のうち6施設は条件付)

③着床前診断の「重篤性」について [資料：倫理 1-3]

苛原稔委員長「今回、小委員会および倫理委員会で『重篤性』を緊急に検討した。多様な意見が出たが、今後の検討で小委員会や倫理委員会での意見が別れる場合は理事会で最終的に決定することにした。今後、家族性のがんに関する申請が増加することも考えられる。意見が分かれた場合は小委員会→倫理委員会→理事会と上げていき、最終判断は理事会でお願いしたい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(4) 「臨床研究審査小委員会」報告事項

- ・日本産科婦人科学会婦人科腫瘍委員会委員長榎本隆之会員より研究計画変更の申請があった、「日本産科婦人科学会婦人科腫瘍委員会 婦人科悪性腫瘍登録事業及び登録情報に基づく研究」について迅速審査を行い、1月8日に審査結果を報告した。 [資料：倫理 2]
- ・九州大学大学院医学研究院・保健学部門諸隈誠一会員より研究計画変更の申請があった、「大気汚染物質の妊婦・分娩および出生児に及ぼす影響に関する研究—妊娠高血圧症候群発症との関連を中心に—」について迅速審査を行い、1月21日に審査結果を報告した。 [資料：倫理 3]
- ・順天堂大学産婦人科竹田省会員より研究計画変更の申請があった、「Accuracy of clinical characteristics, biochemical and ultrasound markers in the prediction of pre-eclampsia; an Individual Participant Data (IPD) Meta-analysis」について迅速審査を行い、1月21日に審査結果を報告した。 [資料：倫理 4]
- ・福岡大学医学部産婦人科宮本新吾会員より研究計画変更の申請があった、「胎状奇胎の掻爬回数と続発症頻度に関する調査研究」について迅速審査を行い、1月21日に審査結果を報告した。 [資料：倫理 5]
- ・東海大学医学部専門診療学系産婦人科学三上幹男会員より研究計画変更の申請があった、「日本

婦人科腫瘍学会ガイドライン委員会： 婦人科がん治療ガイドラインのClinicalQuestion 検証「日本産科婦人科学会婦人科腫瘍委員会腫瘍登録データを用いて」について迅速審査を行い、1月23日に審査結果を報告した。 [資料：倫理6]

- ・大阪母子医療センター光田信明会員より日本産科婦人科学会周産期登録データベース使用申請として承認された、「周産期データベースを用いた前期破水の周産期管理に関する調査」について審査を行い、1月23日に審査結果を報告した。 [資料：倫理7]
- ・秋田大学大学院医学系研究科 産婦人科学講座寺田幸弘会員より日本産科婦人科学会生殖に関する諸登録データベース使用申請として承認された、「『不妊に悩む方への特定治療支援事業のあり方』に関する医療政策的研究（日本産科婦人科学会 ART データベースを用いた医療経済学的分析）」について審査を行い、1月29日に審査結果を報告した。 [資料：倫理8]
- ・杏林大学医学部付属病院産婦人科岩下光利会員より研究計画変更の申請があった、「脳性麻痺発症および再発防止に関する症例対照研究」について迅速審査を行い、1月30日に審査結果を報告した。 [資料：倫理9]
- ・埼玉医科大学病院産婦人科左勝則会員より研究計画変更の申請があった、「全胚凍結が生殖補助医療に及ぼす影響の検討」について迅速審査を行い、2月13日に審査結果を報告した。 [資料：倫理10]
- ・横浜市立大学附属病院市民総合医療センター 総合周産期母子医療センター青木茂会員より日本産科婦人科学会周産期登録データベース使用申請として承認された、「やせ妊婦の至適体重増加量に関する検討」について審査を行い、2月15日に審査結果を報告した。 [資料：倫理11]
- ・徳島大学苛原稔会員より研究計画変更の申請があった、「1) 原因不明習慣流産（反復流産を含む）を対象とした着床前遺伝子スクリーニング（PGS）の有用性に関する多施設共同研究のためのパイロット試験、2) 反復体外受精・胚移植（ART）不成功例を対象とした着床前遺伝子スクリーニング（PGS）の有用性に関する多施設共同研究のためのパイロット試験」について迅速審査を行い、2月15日に審査結果を報告した。 [資料：倫理12]

(5) PGT-A について

苛原稔委員長「開始して5年を経て、パイロット試験がほぼ終わり、3月中にはデータが出る予定である。12月中旬に開催された第4回産婦人科遺伝診療学会の翌日に同じ会場でPGT-Aのシンポジウムを開催し、今後のあり方を検討した。推定される結果は海外のデータと似ており、今後は次の試験に移っていききたい。ただし、人を対象とした医学系研究の倫理指針が整備され、生殖関係でRCTを行うのは難しい。可能であれば対象を決めてオープン試験の形式で行いたい。4月の名古屋での学術集会で関係者に参集いただき今後のパイロット試験の内容など説明予定である。」

(6) 日本産科婦人科学会への情報提供に関する記録（日産婦提出用改訂案）について

[資料：倫理13-1、13-2]

三上幹男委員長「各専門委員会が各施設から集めている登録データについては、各施設が倫理委員会に付議するか否かは各施設の判断に委ねているが、データを学会に提出していることを機関の長に届け出ることが倫理指針で決まっている。周産期登録において、ある大学でこの違反が倫理委員会に指摘され内々に厚生労働省に伝わった。今後の対応としては、差し替え資料：倫理13-2にあるよ

うに『機関の長への報告』欄を追記し、この用紙をデータと一緒に提出することを広く周知したいと考えている。」

藤井知行理事長「周知の方法はどうするのか。」

三上幹男委員長「各施設にポスターのようなものを作成し各施設に送付し流れを周知することと、年間のタイムスケジュールを決めて、提出がない場合は繰り返し催促するようにしたい。」

吉川史隆理事「『機関の長への報告』欄に『報告予定』という選択肢があるがそれでよいか。」

藤井知行理事長「それでよい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

9) 教育 (竹下俊行理事)

(1) 会議開催

必修知識編集委員会	2月27日(水)
第4回教育委員会	3月1日(金)
IWJF 打合せ会	3月1日(金)

(2) 書籍頒布状況 2月20日現在

産婦人科研修の必修知識 2016-2018	1,032
産婦人科研修の必修知識 2016-2018 電子版付き	588
産婦人科研修の必修知識 2016-2018+例題と解説集	590
産婦人科研修の必修知識 2016-2018 電子版付き+例題と解説集	722
うち必修知識ダウンロード	967
用語集・用語解説集改訂第4版(書籍版)	447
用語集・用語解説集改訂第4版(電子版付)	748
うちダウンロード済み	380
専門医試験例題と解説 2016	1,272
専門医試験例題と解説 2017	557
専門医試験例題と解説 2018	1,122

(3) 日本医学会用語委員会への出席

2018年12月18日に開催された日本医学会用語委員会に用語委員会副委員長である久具宏司先生が出席した。 [資料:教育1]

(4) 専門医認定筆記試験問題作成について

2019年度専門医認定筆記試験問題作成にあたっては、ほぼ予定通り進行中である。

(5) 第71回学術講演会時「International Workshop for Junior Fellows」の担当については、

2018年12月18日開催の打合せ会の議を経て抄録の修正をお願いし、さらに担当校での英文校閲を依頼した。

(6) 日本医学会より ICD-11 にかかる和訳の意見照会が1月8日付で届いた。 [資料:教育2]

竹下俊行理事「各学会に要請が行われている。当初2月末が締め切りだったが、リストは4万語を超えており教育委員会や用語委員会では対応できないと判断し、第4版の用語集のファイルを厚生労働省に送付した。先方でICD-10と第4版用語集を付き合わせ、大多数の用語がそれにより和訳が

行われる見込みである。その結果を待ち、必要な追記・修正は本会で対応する。」

- (7) 厚生労働省政策統括官付国際分類情報管理室より、社会保障審議会統計分科会「疾病、傷害及び死因分類専門委員会」の専門委員(池田仁恵先生：東海大学)の後任推薦依頼を受領した。教育委員会で検討し、後任として寺尾泰久主務幹事を推薦した。 [資料:教育3]

- (8) 2020年ACOG派遣について

会期の問題から2020年ACOGへの派遣については、渉外担当常務理事 岡本愛光先生とACOG側で調整をお願いしたい。なお、派遣予定者については第71回日本産科婦人科学会学術講演会 International Sessionを2次審査として選考を行う予定である。

- (9) 第71回学術講演会時医学生フォーラム参加者への記念品について

担当校より、学生、チューター、審査員に対しての用語集・用語解説集改訂第4版128冊(学生117名+チューター9名+審査員2名)の寄贈希望があった。

藤井知行理事「例年通りなのか。」

竹下俊行理事「教育委員会ではチューター、審査員は既に用語集・用語解説集改訂第4版は持っていると推測されるので、学生だけでいいのではという意見であった。」

学生にのみ贈呈することについて特に異議はなく、全会一致で承認された。

- 10) 地方連絡委員会(八重樫伸生委員長) 特になし

V. 理事会内委員会報告並びに関連協議事項

1) 広報委員会(榎本隆之委員長)

- (1) JOB-NET 公募情報について

①JOB-NET 事業報告

[資料: 広報1]

- (2) ホームページについて

①ホームページアクセス状況について

[資料: 広報2]

②アッヴィ合同会社のバナー広告について、2018年12月末日で掲載契約終了となった。

終了理由: コンプライアンスが年々厳しくなり、金額面で決裁が下りなかった為。

- (3) ACOG Website 会員専用ページログイン人数について

[資料: 広報3]

- (4) HUMAN+/Baby プラスについて

①2月13日現在、HUMAN+の配布・販売冊数は182,720部。Babyプラスの冊子配布施設は1,990施設。アプリ版Babyプラスのダウンロード数は1月末時点で累計11万。アプリ開発については、登録された産院から登録したユーザー宛てに随時情報発信される「産院からのお知らせ」、パートナー向け「ペアリング機能」、妊娠中の検査情報が得られる「検査コンテンツ」、「カレンダー」の機能搭載の展開を進めている。 [資料: 広報4]

②名古屋での学術講演会期間中（4月13日（土））「日本産科婦人科学会の新たな取り組み～妊婦さんに必要な情報と機能を兼ね備えた『Baby プラス・アプリ』」として、座長：榎本隆之広報委員会委員長、演者：阪埜浩司幹事長によるランチョンセミナーを行う予定である。

[資料：広報5]

③厚生労働省医政局地域医療計画課より、省内で発刊する雑誌に「上手な医療のかかり方」を特集する。については妊婦向けとしてBaby プラスアプリを掲載したいとの依頼があり応諾した。

[資料：広報6]

④千葉市健康部健康支援課より、若年層への妊孕性の啓発活動の一環として高校生向け妊孕性啓発リーフレットを作成することになった。についてはQRコードを使用しHUMAN+にリンクを張りたいとの申し出があり承諾した。

(5) アネティス春号について

2) 災害対策・復興委員会（村上節委員長）

(1) 会議開催

第4回災害対策・復興委員会

3月1日（金）

村上節委員長「今期中に、Dropbox を利用し災害が起こった際の対応を共有する予定である。」

(2) 日本小児医療保健協議会（四者協）が立ち上げた小児・周産期領域災害医療対策委員会（田口智章委員長）より、本会に対して委員会への参加招請状を受領した。第9回小児・周産期領域災害医療対策委員会（平成30年12月20日開催）に、本委員会より西ヶ谷順子主務幹事が出席し、大規模災害対策情報システムについての説明を行った。

3) 診療ガイドライン運営委員会（工藤美樹学会側調整役）

(1) 産科編委員会（板倉敦夫委員長）

① コンセンサスマーケティング開催予定

第1回コンセンサスマーケティング（名古屋）名古屋国際会議場	4月12日（金）
第2回コンセンサスマーケティング（東京）フクラシア丸の内	5月12日（日）
第3回コンセンサスマーケティング（名古屋）JPタワー名古屋	6月8日（土）
第4回コンセンサスマーケティング（松本）長野県松本文化会館	7月14日（日）

② 「産婦人科診療ガイドライン-産科編2017」頒布状況について（2月20日現在）

書籍版：12,478冊

書籍版+ID/PW付き：2,312冊

電子版ダウンロード：2,053件

(2) 産科編評価委員会（田中守委員長）

① 会議開催

ガイドライン2020 第1回産科編評価委員会

3月30日（土）【予定】

(3) 婦人科外来編委員会 (小林浩委員長)

① コンセンサスマーティング開催予定

第1回コンセンサスマーティング(名古屋) 名古屋国際会議場	4月12日(金)
第2回コンセンサスマーティング(東京) フクラシア東京	5月19日(日)
第3回コンセンサスマーティング(東京) 都市センター	6月15日(土)

② 「産婦人科診療ガイドライン-婦人科外来編 2017」頒布状況について (2月20日現在)

書籍版: 7,577冊

書籍版+ID/PW付き: 1,889冊

電子版ダウンロード: 1,782件

(4) 婦人科外来編評価委員会 (若槻明彦委員長) 特になし

工藤美樹学会側調整役「2020年版の診療ガイドラインは、最終原稿を8月30日までに完成させることになっている。産科編は今後、評価委員会を2回、コンセンサスマーティングを4回開催予定である。婦人科外来編については評価委員会は終了し、コンセンサスマーティングが残り3回である。」

4) コンプライアンス委員会 (山田秀人委員長)

(1) 役員等を対象とした利益相反自己申告書提出を依頼し、既に全員が提出済みである。今回の対象期間は2015年4月1日～2018年3月31日の3年間で、326名の委員の先生方+事務局11名が対象となった。なお各ガイドライン委員会委員の利益相反状態につき、各委員長に開示した。山田秀人委員長「2週前に対象者全員の申告書が全て集まり、記載にあるとおり開示した。」

5) 医療改革委員会 (海野信也委員長)

(1) 会議開催

第4回医療改革委員会	3月1日(金)
------------	---------

(2) 1月27日(日) フクラシア東京ステーションに於いて「拡大医療改革委員会」兼「産婦人科医療改革委員会フォーラム」を開催した。10演題の講演を行い、約100名の参加があった。この模様については本委員会ホームページ「周産期医療の広場」に掲載する予定である。

[資料: 医療改革1]

海野信也委員長「テーマは『産婦人科医の働き方改革を実現させるための方策』ということで、厚生労働省の方との議論や各地域での取り組みの報告を通して情報共有を図った。参加者は108名、NHKでも放映された。」

(3) 「産科における医師偏在指標作成検討委員会」について
厚生労働省の医療従事者の需給に関する検討会医師需給分科会に医師偏在指標作成の検討の場として設置された。2018年11月12日に予備会議、2018年12月26日に第1回会議、2019年1月16日

に第2回会議を開催した。

[資料：医療改革 2, 2-1]

海野信也委員長「厚生労働省のホームページを確認いただくとわかるが、医師需給分科会での産科における医師偏在指標では、東京都が1位で、秋田県、和歌山県、大阪府の順番となっている。この資料が公表された後、秋田大学の寺田幸弘先生より『秋田県が2位とはどういうことですか』とのご質問があったが、医師の実感とかけ離れている。この件は厚生労働省の説明が不十分なところがあり、資料 2-1「産科における医師偏在指標に関する留意事項」のように補足しないと学会ホームページには載せることはできないと考えている。理事会で承認いただければ本日の記者会見でもこれを元に説明したい。」

藤井知行理事長「産科における医師偏在指標について、確かに秋田県が2位というのには驚くべき結果であり、また東京 23 区東部区部が医師不足地域という結果はいかがなものかと思う。」

寺田幸弘理事「地元紙には全国で2番目に充足されていると掲載された。象徴的だったのは、全国5位だった地域は分娩施設1施設で、定年近い先生が一人で年間70～80件の分娩を頑張っていた。医師の数をその月の分娩で割るととんでもない数字になる。医療圏の問題もあり、広さや拘束時間等色々な観点から今後ご検討いただければと思う。」

苛原稔理事「徳島県も5位に入り、日頃は下から5番目くらいであったが今回は上から5番目という結果になっている。産婦人科医を割るとこの結果になるが、産科医師は高齢の方で産科をされていないところもあり、その辺を加味した対応をお願いしたい。」

「産科における医師偏在指標に関する留意事項」について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(4) 「医師の働き方改革に関する検討会」(厚生労働省)への意見・要望書(案)について

[資料：医療改革 3]

海野信也委員長「これは1月18日に厚生労働省に提出した要望書だが、いわゆる過労死ラインに示されている時間外労働の水準を大きく越えることがないようにという意見である。この時間外労働の上限、宿日直許可基準、兼業・副業における労働時間の管理が論点になっている。」

藤井知行理事長「労働時間の上限は1,860時間で決まりそうである。兼業時間を入れられると、兼業をこれだけしているから働けないという人が出てくるかもしれず、難しい問題である。この件に関しては海野先生に引き続き動いていただきたい。」

6) 男女共同参画・ワークライフバランス改善委員会(千石一雄委員長)

- (1) 71回学術講演会に於いて、男女共同参画・ワークライフバランス改善委員会・未来委員会・医療改革委員会共同企画として、「産婦人科の働き方改革」をテーマに、基調講演+ワークショップを行う予定である。

[資料：男女共同1]

- (2) 日本リハビリテーション医学会より、第56回日本リハビリテーション医学会学術集会(2019年6月12日～16日)期間中、各学会から学ぶ男女共同参画支援というテーマで内科系の学会の男女共同参画支援部門との合同企画を行うことになった。についてはシンポジスト1人を推薦して頂きたいとの依頼があり、本委員会の富樫嘉津恵先生を推薦したい。旅費は本委員会負担となる。

7) 産婦人科未来委員会(生水真紀夫委員長)

- (1) 会議開催

第9回スプリングフォーラム打合せ会

2月15日(金)

第4回産婦人科未来委員会	3月1日（金）
第3回プラスワンプロジェクト/サマースクール合同打合せ会	3月29日（金）【予定】
第3回プラスワンプロジェクト/サマースクール合同打合せ会	4月13日（土）【予定】

(2) 第9回スプリングフォーラム

12月13日に学会ホームページ案内をUpし、18日には専門医指導施設宛にポスター掲示の依頼を送付した。申込はGoogleフォームで行い、料金決済についてはJTBのシステムであるアマリスを利用する。

会 期：2019年3月16日（土）、17日（日）

会 場：兵庫県淡路夢舞台国際会議場、ウエスティンホテル淡路

① 参加希望:66名

② 新神戸からのバスに関しては、原則公共交通機関（バスの増便を依頼）で対応する。

③ 託児施設利用は10名

参加者数は例年どおり。初期研修必修化への対応をテーマに討議を行うこと、セルフモチベーションの源泉を生み出すという講演を予定している。

(3) 第3回プラスワンプロジェクトについて

会 期：2019年5月11日（土）、12日（日）

会 場：東京都フクラシア東京ステーション

今回もJTBシステムであるアマリスを利用して参加者募集を行う予定である。

(4) 第13回産婦人科サマースクール

会 期：2019年8月17日（土）、18日（日）

会 場：かずさアーク

(5) プラスワンプロジェクト若手指導医・サマースクール若手実行委員

2月15日を締切として公募を行っている。

生水真紀夫委員長「例年と異なり募集を同時に行っている。プラスワンプロジェクトとサマースクールの両方に参加する先生の便宜および交通費削減を意図している。」

(6) 第71回日本産科婦人科学会学術講演会の際の新専門医合格者への認定証授与式のお手伝い標記について、若手委員3名程度をお手伝いとして召集する予定である。

(7) 第71回学術講演会時産婦人科未来委員会若手委員会企画を開催の予定である。[資料：未来1]

テーマ：リクルートを変える、未来へ繋ぐ～2020年産婦人科初期研修必修化にむけて～

日 時：2019年4月14日（日）11：00～11：40

会 場：名古屋国際会議場「白鳥南」

生水真紀夫委員長「スプリングフォーラムで討議した内容を基にパネルディスカッションを行う。今年度が初めての企画である。」

8) 女性活躍のための健康推進委員会（大須賀穰委員長）

(1) 女性の健康週間 2019 について (理事会出席者にロゴマークバッジを配布)

①2月4日(月)～7日(木)、日本経済新聞夕刊全国版に丸の内キャリア塾女性の健康週間広告特集を掲載した。 [資料：女性活躍1]

②3月4日(月)、5日(火)、女性の健康週間 丸の内キャリア塾スペシャルセミナーを開催の予定である。 [資料：女性活躍2]

(2) 地方学会担当市民公開講座について [資料：女性活躍3]

9) 医療安全推進委員会 (村上節委員長)

(1) 一般社団法人日本医療安全調査機構より、平成30年11月末～31年1月末時点での医療事故調査制度の現況報告を受領した。 [資料：医療安全1]

村上節委員長「医療事故の内容としては手術(分娩含む)が多いことが分かる。」

(2) 一般社団法人日本医療安全調査機構より、平成30年度協力学会説明会(平成31年3月20日)の開催案内を受領した。本会から佐藤美紀子主務幹事が参加する予定である。

[資料：医療安全2]

(3) 日本医療安全調査機構より、医療事故・支援センターが1事例のセンター調査を行うにあたり、審議に協力できる調査員3名の推薦依頼を受領した。晴山仁志先生(札幌マタニティ・ウイメンズJRタワークリニック)、石岡伸一先生(札幌医科大学)、西川鑑先生(にしかわウイメンズヘルスクリニック)を推薦したい。

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

10) 公益事業推進委員会 (八重樫伸生委員長) 特になし

11) 児童虐待防止のための女性支援委員会 (荻田和秀委員長)

(1) 公開シンポジウムについて

2月11日(月)に東京大学構内の伊藤国際学術研究センター(伊藤謝恩ホール)にて、公開シンポジウム「周産期からの虐待予防」を開催した。参加者は約160名であった。

[資料：児童虐待防止1]

荻田和秀委員長「議論が盛り上がり盛況であった。当日集計したアンケートはまとまり次第、報告する。」

藤井知行理事長「周産期からの虐待予防だったが、一つ残念だったのが、周産期の専門家が誰も出席していなかった。周産期の専門家にも是非興味を持っていただきたい。」

VI. その他

以上